

バイオサイエンス学科 学会発表

【発表者について】アンダーラインは本学教員および研究員、○は発表者、※は卒研究生または卒業生

学会名	日本植物学会第79回大会
演題名	光と温度がもたらす群体性緑藻 <i>Pediastrum duplex</i> の多核化への影響
発表者	○宮本 なるみ※、佐藤 尚実※、加藤 翔太、篠村 知子 (植物分子細胞学研究室)
内容	<p>群体性緑藻<i>Pediastrum duplex</i> (和名 フタツノクンショウモ) は、4~64個の細胞から1つの群体が構成されている。その無性生殖サイクルでは、親群体の個々の細胞が「多核化」した後に、各細胞中に4~64個の遊走子が形成され、その遊走子細胞が結合した後に1つの新群体を形成する。P. duplexの多核化や新群体の形成に及ぼす光照射や温度の影響を解析し、培養開始時から暗所で培養した実験区では、群体密度の増加を示さず多核化の進行も認められなかったのに対し、至適温度で連続光照射した処理区では培養1日後に多核化が進行し、培養2日後には新群体の形成が認められ、群体密度が増加した。一方、低温で連続光照射した処理区では、7日間の培養期間中に群体密度の増加は示さなかったにもかかわらず、多核化の進行が認められた。以上の結果から、P. duplexの多核化の促進と新群体の形成は異なる制御機構によって調節されていることが示唆されたことを見出し報告した。</p> <p>本研究の一部は科学研究費補助金 (基盤研究C) の支援を受け、H27年度の卒研究生と共同で行った。</p>
関連画像	